

令和6年度地域教育行政懇談会の開催結果の概要について

1. 議題

- (1) 教育施策全般（県教育委員会の事務の管理・執行の状況の点検・評価等）
- (2) 今後の学校・地域・保護者の連携について

2. 日程・出席者等

（敬称略）

地域 日程	地域の教育関係者等	
	氏名	役職
仲善・三観 7月17日(水) 13:00～14:30	大平 一仁	西中学校PTA会長
	石井 恭子	善通寺市いじめ防止等対策委員会委員
	高城 克如	観音寺市PTA連絡協議会会長
	小林 千芳	三豊市教育委員会事務事業点検・評価員
	大西 由華	琴平中学校PTA会長
	村岡 善邦	多度津町PTA連絡協議会会長
	橋塚 智教	まんのう町少年育成センター所長
高松・東讃・小豆 7月22日(月) 13:00～14:45	辻 佳宏	高松市PTA連絡協議会会長
	松本 学武	高松市子ども会育成連絡協議会会長
	寒川 千春	さぬき市PTA連絡協議会母親代表委員会副委員長
	六車 鉄平	東かがわ市PTA連絡協議会会長
	川西 剛	土庄こども園PTA会長
	島 薫	土庄中学校PTA副会長
	川井 百太郎	小豆島中学校PTA副会長
	鴨井 俊徳	白山小学校学校運営協議会会長
	土居 智也	三木町PTA連絡協議会副会長
	佐光 隆	直島中学校校長
	松野 吉高	直島中学校PTA副会長
丸亀・坂綾 7月23日(火) 13:00～14:30	金澤 泰宏	丸亀市PTA連絡協議会会長
	奥澤 日登美	丸亀市民生委員児童委員協議会連合会 副会長 飯野地区地域コーディネーター
	宮本 貴光	坂出市PTA連絡協議会会長
	別所 順子	宇多津中学校PTA会長
	池内 丈史	宇多津北小学校PTA副会長
	渡辺 隆博	綾上小学校PTA会長（綾川町PTA連絡協議会会長）

3. 意見の概要

教育施策全般（教育委員会の事務の管理・執行の状況の点検・評価等）

- 学力の育成について、専科担当教員による専門的な指導を実施とあるが、小さいうちから専門的なことに触れることはとても大切だと思う。
- なぜ学ぶ必要があるのかを学校で子どもたちに十分教え、勉強は楽しい、社会で役に立つということを教えると子どもの学力アップに繋がると思う。
- 子どもたちの読解力が落ちていると感じるため、読書の時間を大切にしてほしい。
- ICTを駆使した教育について、若手教員とベテラン教員で教え方に差が出てくると思う。
- パソコンやタブレットを使うのが不得意な子どもたちも使えるような教育が必要だと思う。
- 特別支援教育は多種多様なニーズに対応していかなければならない。例えば、特別支援学校からの交流で、特別支援のスペシャリストを学校に1人配置してもらえたら、特別支援学校の視点と、通常学級の視点とが混ざり合って、良い化学反応が起こると思う。
- 心の育成やいじめの問題は、子どもだけでなく保護者にも寄り添えると全体的に良くなると思う。
- SNSの発達で見えなくなっているいじめについて、どのように対応をしているのか。
- いじめや不登校の問題は、生活習慣も関わっていると思うので、学校とPTAが連携して保護者にも協力してもらいながら、子どもたちの生活習慣を良くしていけるように取り組んでいきたい。
- 学校ではLGBTQに関し、どのように生徒に教えているのか。また、自分の性に悩んでいる子どもについて、先生や保護者が勉強する場があればいいと思う。
- 暴力行為の発生件数やいじめの認知件数の推移をグラフでみて、親としても何かできることがあるのではないかと思った。
- 評価指標13番の「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」との質問に、「思う」と回答した児童生徒の割合について、令和7年度目標を「現状を上回る水準」としているが、これは「100%」が当たり前だと感じる。
- 不登校児童生徒の支援のため、校内サポートルームを設置しているが、先生方の負担も考慮した運営方法について、今後しっかりと考えてほしい。
- 不登校には色々な原因があるが、学校の勉強に付いていけない子どもたちが一定数いて、先生とのコミュニケーションが取れないので分からないことを聞きに行きにくいということがあるのではないかと思う。
- 部活動の地域移行について、クラブ活動化で発生する保護者の負担についても、対策の検討をお願いしたい。
- 部活の地域移行など、地域との連携で教育機関の管理職と現場に温度差や理解不足があるように思うので、現場の教職員まで伝わるようにしてほしい。
- 気温が非常に高い時があるため、外遊び等を工夫しながら体力を養っていかなければならない。
- ネット・ゲーム依存予防対策への取組みについて、子どもたちがスマホ等を手放したら一体どのような遊びがあるのか、私たち大人が、伝えていかなければならない。
- 働き方改革の推進状況を測る指標として、先生の年次休暇の取得日数で判断するというのは少し無理があると感じる。

- 働き方改革を進めた結果、子どもたちにどのような学びが訪れるのか、ビジョンが見えると協力がしやすい。
- 先生のストレスが溜まり、先生がきつい言葉を遣ってしまう場面がある。アンガーマネジメント等、先生たちをサポートする体制を整えていただきたい。
- 学校教育の目的の一つはグローバルな立場で活躍できる人間を育てていくことである。そのためにも学校は児童生徒が行きたい、親も行かせたい魅力的なものになる必要がある。
- 生活習慣の乱れは学校だけでなく、家庭の問題でもある。朝早く起きなかったり、朝ごはんを食べなかったり、子どもは親の姿を見て育つので、保護者自身の生活習慣を見直さなければならない。
- 県と協働している「地域で共育！」で、子どもたちがわくわく感を持てるような企画をしていきたい。
- PTA活動を通して、親が子どもに関わろうとしている姿を見せることは教育上必要なことだと思っている。
- PTAが主催する行事等で多世代と交流をすることで、子どもたちは多くの大人、地域の大人に愛されていると実感ができると思うが、コロナ禍や働き方改革による行事の簡素化で、それを実感できる、経験できる場面が減っているのではないかと感じる。
- PTAのあり方がとても問われている。昔の考え方のままでは、保護者に全然話が通じなかったり、保護者の価値観も変わってきている。PTAのあり方に関して話し合わなければいけない時期に差しかかっていると思う。

今後の学校・地域・保護者の連携について

（社会全体での子育て）

- 教育問題について学校現場だけに任すのではなく、全国民を活かすという発想が必要である。
- 先生がどのようなことに困っているか保護者が知らないことで、保護者の意見ばかりを先生に伝えていることが多いため、お互いの意見を調整する場があれば、家庭教育と学校教育がスムーズに連携がとれると思う。
- 学校運営協議会を膨らませて、学校が何をしたいのか、どういうことに協力して欲しいのかを協議する会にしてはどうか。
- 学校教育、保護者との連携について、コロナ前後で学校とPTAの連携が薄れてきたと思う。学校と地域とがどのように連携していくかのかが課題だと考える。

（学校における働き方改革の推進）

- 働き方改革というが、学校での残業が減っても先生方は家で仕事をしている。先生方の心や体の面を重く考えていく必要がある。
- コロナ禍を経て、PTAの改革ということで行事を一新し、やること、やらないことをはっきり決めた。

- 地域ボランティアといっても、私たち社会人の働き方が変わり、以前は60歳が定年で、退職した後に学校に行って何かしようとできたが、年金の支給が65歳からになって今もフルタイムで働いているので、3分類に「校内清掃（輪番、地域ボランティア等）」「休み時間の対応」とあっても行くことができない。
- 働き方改革を進める一方で、新しい問題が多く出てきており、先生方の負担は増えていると思う。これから教育委員会が何かの対策を講じてくれることを期待している。